

山根一仁さん応援レポート

旧朝香宮邸 東京都庭園美術館コンサート2015

山根一仁 ヴァイオリン・リサイタル

2015年9月27日(日) 東京都庭園美術館 本館大広間

フランスの香り豊かなサロン・コンサート



東京都庭園美術館。フランス、アール・デコ様式の旧朝香宮邸と、緑豊かな庭園で知られる。

1933年に完成された本館は、アールデコ様式の粋を尽くした瀟洒な建物である。2011年に始められた改修工事も終わり、ホワイトキューブのギャラリーを備えた新館とともに、リニューアル開館されている。この7月には旧朝香宮邸が重要文化財に指定された。

本日の舞台は、その旧朝香宮邸大広間。庭園美術館の象徴ともいわれる香水塔の姿が美しい。



瀟洒な空間に艶やかに響くフランス楽曲



重要文化財の中でのサロン・コンサート。
この洒落た企画、朝香宮様が長年あたためていらした企画を実現されたものなのだそうです。会場には、東京芸大でチェロを専攻していた朝香宮ご夫妻のお姿も。

曲目には、今、山根さんが1番心を寄せているというフランス音楽から、ドビュッシーとラヴェルが選曲された。
アールデコ様式を誇る旧朝香宮邸とフランス楽曲、たしかによく似合う。



山根さん登場。今日はブルーのシャツにベストと、シックないでたち。

1曲目ドビュッシーのヴァイオリン・ソナタ。
後ろの席でも息遣いまで聞こえるほどに間近に聴く音色、乾いた音、艶のある音、曲を包む空気感が伝わってくる。

続いてラヴェルのヴァイオリン・ソナタ。
優美にかつ大胆に演奏が続く。明るい照明のもと、指遣い、弦さばきの動きを間近に追えるのもサロン・コンサートならではの。エスプリを感じさせる第2楽章、難解なメロディの第3楽章。自由に大きく、ラストの盛り上がり。

最後の曲、ラヴェルのツィガーヌ。
ラヴェルがジプシー音楽に魅せられて作曲したといわれるこの曲は、ヴァイオリンの「ヴィルトゥオーソピース(超絶技巧曲)」でもある。
後半、早いテンポで情熱的に奏でられる音色は、迫力満点。圧巻だった。

拍手鳴り止まず。皆様、驚きを隠せないご様子。

アンコールにはフォーレの子守唄が演奏された。
何度も続くカーテンコールに、山根さん、最後はヴァイオリンを置いてお茶目に退場。

留学前、日本での最後の演奏会に想いを込めて

演奏後は、新館に移動し、緑美しい庭園を眺めながらの懇親会。

「素晴らしかったわ」

「お若いから、今からが更に楽しみね」との声が、あちらこちらで聞かれた。

この10月からは、ドイツのミュンヘン音楽・演劇大学に留学し、新しい生活をスタートされる山根さん、本日の演奏について；

「・・・今日の3曲は、どれも弾いたことのある曲でしたが、何回弾いても、毎回変わるんですね。その場、その場で。」

今日は、留学前、日本での最後の演奏会だったので思い出がありました。

楽しむことができたので、今日は良かったです」

10月からの留学生活は；

「・・・まず言葉を学んで。楽しむことができます。不安もいっぱいあるけれど・・・」

この演奏会の翌日にはミュンヘンへと旅立った山根さん、「・・・住民登録や保険、学籍登録などに追われる毎日を過ごしてます。ヴァイオリンどころではないです。笑」と、元気なメールが届いた。

山根さん、素敵な演奏でした。

一時帰国の折には、また聴かせてください！



<本日の演奏曲目>

ドビュッシー: ヴァイオリン・ソナタ

ラヴェル: ヴァイオリン・ソナタ

ラヴェル: ツィガーヌ

<アンコール曲>

フォーレ: 子守唄

ピアノ: 梅村祐子氏



【コンサート・パンフレット】

旧朝香宮邸 東京都庭園美術館コンサート 2015
Tokyo Metropolitan Teien Art Museum Concert

第3回

山根一仁
ヴァイオリン・リサイタル



日時: 2015年9月27日(日) 14:00 開演
会場: 東京都庭園美術館 本館大広間

主催: 公益財団法人東京庭園史文化財団 東京都庭園美術館
株式会社ジャパ・アーツ
企画: 朝香誠彦
協賛: 株式会社ニッポロデザイン化粧品
協力: 株式会社ショコラティエ・エリカ

曲目解説

ドビュッシー : ヴァイオリン・ソナタ

室内楽作品が稀少であったクロード・ドビュッシー(Claude Debussy, 1862-1918年)は、晩年になって3曲のソナタを作曲していますが、死の前年に書き上げられたこのヴァイオリン・ソナタが最後の作品となりました。当科の宣言を受けていた作曲家は、第一次世界大戦の最中、精神的にも肉体的にも極限状態にあり、一旦完成した後、最終楽章の徹底的な手直しを行っています。その結果、暗澹とした憂鬱の漂っていた最終楽章は、快活で明るい印象の作品として完結することとなりました。初演は1917年5月、作曲家自身のピアノとガストン・ブーレ(G. Poulet)のヴァイオリンによって行われ、妻のエンマに贈呈されています。

- 第1楽章 Allegro vivo 生き生きと
- 第2楽章 Intermezzo. Fantasque et léger 間奏曲 幻想的に軽快に
- 第3楽章 Finale. Très animé 終章 極めて快活に

ラヴェル : ヴァイオリン・ソナタ

モーリス・ラヴェル(Maurice Ravel, 1875-1937年)が5年の歳月をかけて1927年に完成した、ラヴェル最後の室内楽曲です。「15年という歳月は」余計な音を削るのに必要な期間だった」という作曲家本人の言葉も残されています。初演は同年5月に、作曲家自身のピアノとジョルジュ・エネスク(G. Enescu)のヴァイオリンで行われています。

- 第1楽章では、厳格な形式が揺るがれた古典的な響きと、複雑による斬新な響きがせめぎ合います。第2楽章は、ラヴェルがしばしば足音運んだといわれるニューヨークのナイトクラブを彷彿とさせるジャズの雰囲気があります。第3楽章では超絶技巧(virtuoso)が要求され、同じ旋律が急速に反復される摩訶不思議なクライマックスへと導かれてゆきます。
- 第1楽章 Allegretto プルーズに
- 第2楽章 Blues ブルース
- 第3楽章 Perpetuum mobile 無窮動

ラヴェル : ツィガーン

演奏会用狂詩曲として1924年に完成されたヴァイオリンのヴィルトゥオーゾピースです。ロンドンで行われるラヴェル祭のために作曲されました。「ツィガーン(Tzigane)」とはロマと呼ばれるジプシーのことです。彼らの音楽に感ぜられたラヴェルが、ハンガリー出身の女性ヴァイオリニスト、イムリー(Imyri d'Ankum)から得たハンガリー・ロマの音楽に着想を得て作曲したもので、彼女に献呈されました。チャルダッシュの形式を用い、前半のテンポが遅く穏やかな「ラッサン」と、後半の早いテンポで情熱的な「フリスカ」で構成されています。

ご挨拶

2002年より開催しております東京都庭園美術館コンサートは、2011年より美術館の改修工事のため3年間中断しておりましたが、昨年11月のリニューアルオープンに伴い再開の運びとなりました。また、今年7月には美術館本館(旧朝香宮邸)が重要文化財に指定され、お陰様でこのところ大勢の方々が笑顔でくんだり賑わっているようです。

サロンコンサートの企画をしたいという私の思いは、今から40数年前に遡ります。東京藝術大学(チェロ専攻)卒業後、イタリア、ローマのサンタチエチリア音楽院に留学した時に初めてサロンコンサートに出会いました。ヨーロッパでは、サロンコンサートは人々が身近に音楽に触れる場として生活の中に定着しており、日本でも、クラシックが日常的に気軽に聴ける場を作りたくと強く思い、夢を温めておりました。その夢が2002年より美術館にて叶い、今日まで続けることができました。多くの皆様のお陰でサロンコンサートを継続することができますことを心より感謝申し上げます。

朝香誠彦

本日はお忙しいところ、演奏会にお運びくださりありがとうございます。素敵な東京都庭園美術館で演奏する機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今日は、今、僕が一番心を寄せているフランス音楽をお届けしたいと思います。今日浮かせていただく色彩豊かな曲たちは、美しいこの建物の雰囲気にとっても合うと思います。みなさまにフランスの香りをお楽しみいただけたら嬉しいです。

僕は秋からヨーロッパの地で新しい生活をスタートします。その出発前のコンサートはこの素晴らしい場所です。感謝の気持ちでいっぱいです。これから世界に向けて羽ばたくにあたっての夢と希望、そして少し不安な気持ち、でもどこかワクワクした冒険心。いろいろブレンドして、本日もお楽しみいただきまいたみなさまに『今』の僕の演奏を聴いていただけたら幸いです。

感謝を込めて、ありがとうございます！

山根一仁

山根一仁
(ヴァイオリン)
Kazuhito YAMANE, Violin

1985年生まれ。2010年、中学校3年在学中に第75回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞、黒柳賞、葛見賞、岩谷賞(総賞)、並びに全部門を通して最も印象的な演奏・作品に贈られる増沢賞も受賞。同コンクールで中学生の1位は26年ぶり。以後、桐蔭女子高等学校音楽科(共学)に全額免除特待生として入学される。福井県立生田国際音楽祭、フランス・ブローカール音楽祭など国内外のマスタークラス、音楽祭としてソロおよび室内楽に研鑽を積み音楽賞、優秀賞、ディプロマ等多数受賞。これまでに秋山和慶、井上道義、岡田敏明、大友直人、高岡健、広上淳一、山田和樹等名匠とN響、新日本フィル、東響、日本フィル、東京フィル、アンサンブル全沢、都響、名古屋フィル、大塚フィル、札幌、京響等オーケストラと多数共演。またベルリン・フィル五重奏団、マクシム・ヴェネツァーロフ氏との共演、トットホルン『エストワールシリーズNo.11』に最年少で抜擢される等注目集めている。テレビ・ラジオへの出演もNHK-Eテレ『から』クラシック、NHK-FM2012年スタート『リサイタル・ノヴァ』第一回ゲスト、テレビ朝日『類名のない音楽会』等多数。第60回横浜文化賞文化芸術奨励賞を最年少受賞。12年岩谷時子音楽財団第2回『Foundation for youth』賞(受賞。12、13年度ロームMF奨学生。第43回山形記念財団奨学生。これまでに最富勉高、水野俊知等名匠、桐蔭学園大学ソリストディプロマコース(全額免除特待生)にて原田幸一郎氏に師事。2015年秋よりエムンヘン音楽・演劇大学にてクリストフ・ボッペン氏のもとに研鑽を積む。

梅村裕子
(ピアノ)
Yuko Umemura, Piano

4歳よりピアノを始め、桐蔭学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」、桐蔭女子高等学校音楽科を経て、同大学ピアノ科を卒業。在学中より室内楽を中心に演奏活動を開始。卒業後、様々なコンクールの公式伴奏者を務める。さらにドイツにおけるシュポア国際ヴァイオリン・コンクールにおいて「ソナタ賞」及び「最優秀伴奏賞」を受賞するなどアンサンブル・ピアニストとして高い評価を得る。その後も内外の数々の著名な演奏家との共演を重ね、千住真央子&N響のメンバーによるアンサンブルの公演ではチェンバリストとして数多く出演している。一方、1988年の創立以来「アンサンブル of トウキョウ」のピアニスト、チェンバリストとしても重要な果たすほか、CD録音、放送、音楽祭と室内楽の分野において第一線のアンサンブル奏者として活躍している。また、これまでの豊富な経験をもとに「自主企画による室内楽シリーズ」も行っている。